

## 平成21年産一番茶生産量（主産県）

－ 一番茶の荒茶生産量は、前年産から2,000 t 減少 －

### 【調査結果の概要】

#### 1 摘採面積

摘採面積は3万2,000haで、前年産に比べて500ha（2%）減少した。

#### 2 生葉収穫量

生葉収穫量は14万5,900 tで、静岡県等において品質を重視した早摘みが行われたことや、一部の県における低温の影響等により10 a 当たり生葉収量が減少したことから、前年産に比べて1万2,600 t（8%）減少した。

#### 3 荒茶生産量

荒茶生産量は3万300 tで、生葉収穫量が減少したことにより前年産に比べて2,000 t（6%）減少した。

これを府県別にみると、静岡県が1万6,000 t、次いで鹿児島県が8,030 t、三重県が2,880 tとなっている。

図1 摘採面積の前年比較

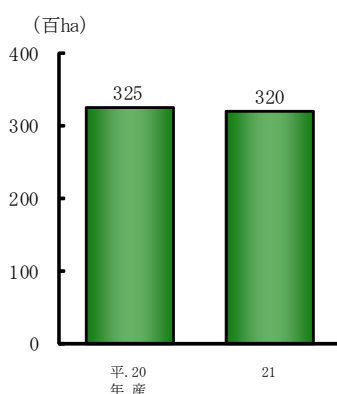
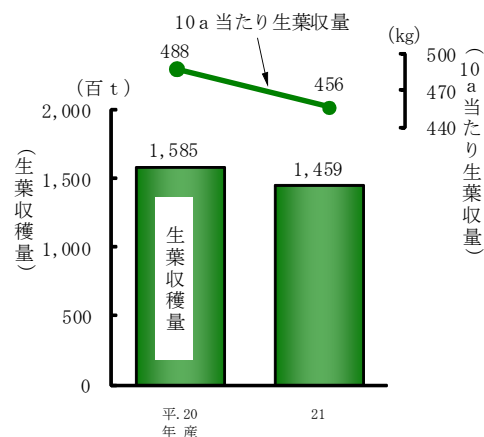


図2 生葉収穫量の前年比較



- 摘採面積とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘採が行われた面積をいう。
- 荒茶とは、茶葉（生葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を経て製造されたもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

- 注：1 この一番茶調査は、主産県を対象に調査を実施しており、主産県とは一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県（静岡県、鹿児島県及び三重県）及び畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式を採用している3府県（埼玉県、京都府及び奈良県）を加えた6府県である。
- 2 主産県計については、主産県の調査結果を積み上げ集計している。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/syukaku\\_1tya\\_09/syukaku\\_1tya\\_09.xls](http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/syukaku_1tya_09/syukaku_1tya_09.xls) 】

## 【関連するデータ、情報】

### ◎ 調査結果の利活用

農業災害補償制度に基づく畑作物共済事業における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定のための資料

### ◎ 関連データ

#### 1 一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量の推移(主産県)

区分	平. 16年産				17				18			
	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
	ha	kg	t	t	ha	kg	t	t	ha	kg	t	t
主産県計	32 900	465	153 000	32 300	33 000	492	162 300	34 100	32 900	469	154 300	32 000
埼玉県	971	265	2 570	557	1 010	338	3 410	757	985	301	2 960	622
静岡県	19 200	437	83 900	18 000	19 100	465	88 800	18 900	19 000	449	85 400	17 900
三重県	3 090	456	14 100	3 050	2 990	515	15 400	3 250	2 960	493	14 600	3 000
京都府	1 430	547	7 830	1 600	1 420	583	8 280	1 690	1 420	555	7 880	1 650
奈良県	741	834	6 180	1 520	749	862	6 460	1 570	736	783	5 760	1 380
鹿児島県	7 500	512	38 400	7 540	7 690	519	39 900	7 920	7 750	486	37 700	7 450

区分	19				20				21 (概数)			
	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
	ha	kg	t	t	ha	kg	t	t	ha	kg	t	t
主産県計	32 600	474	154 500	31 900	32 500	488	158 500	32 300	32 000	456	145 900	30 300
埼玉県	962	328	3 160	668	954	340	3 240	700	874	325	2 840	604
静岡県	18 800	442	83 100	17 400	18 500	441	81 600	17 100	18 100	414	75 000	16 000
三重県	2 960	515	15 200	3 070	3 010	590	17 800	3 480	2 970	496	14 700	2 880
京都府	1 370	568	7 800	1 650	1 380	509	7 020	1 420	1 380	526	7 260	1 490
奈良県	711	783	5 570	1 270	696	721	5 020	1 190	685	756	5 180	1 300
鹿児島県	7 830	507	39 700	7 850	7 940	552	43 800	8 430	8 000	511	40 900	8 030

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：主産県計については、主産県の調査結果を積み上げ集計している。

#### 2 普通せん茶平均価格の推移

単位：円/kg

区分	普通せん茶	
	普通せん茶	一番茶
平. 16年	1 984	2 890
17	1 830	2 670
18	1 725	2 626
19	1 740	2 641
20	1 581	2 396

資料：(社)日本茶業中央会『茶関係資料』

## 【調査結果】

### 1 摘採面積

摘採面積は3万2,000haで、前年産に比べて500ha（2%）減少した。

これは、主として静岡県等で高齢化等の労働力事情に伴う廃園、改植等があったことによる。

### 2 10a当たり生葉収量

10a当たり生葉収量は456kgで、前年産に比べて7%下回った。

これは、静岡県等において品質を重視した早摘みが行われたことや、一部の県における低温の影響等により生育が抑制されたこと等による。

### 3 生葉収穫量

生葉収穫量は14万5,900tで、前年産に比べて1万2,600t（8%）減少した。

これは、摘採面積が減少したことに加え、10a当たり生葉収量が前年産を下回ったことによる。

### 4 荒茶生産量

荒茶生産量は3万300tで、前年産に比べて2,000t（6%）減少した。

これを府県別にみると、静岡県が1万6,000t（荒茶生産量の53%）、次いで鹿児島県が8,030t（同27%）、三重県が2,880t（同10%）となっている。

図3 一番茶の摘採面積及び荒茶生産量（主産県）

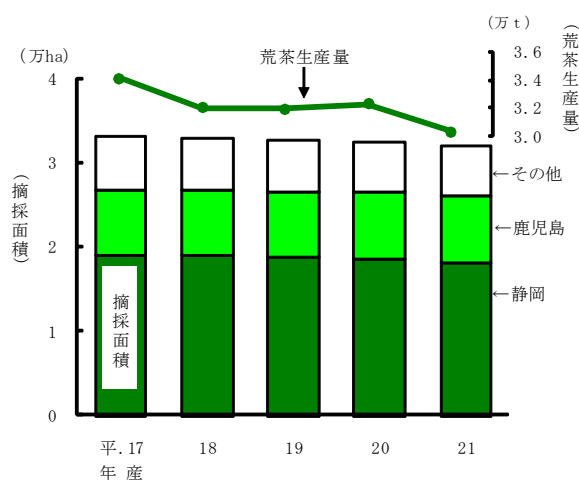


図4 一番茶の府県別荒茶生産量（主産県）

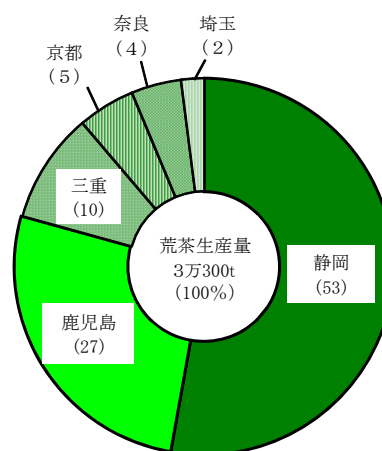


表 一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県計）

区分	摘採面積	10a当たり生葉収量	生葉収穫量	荒茶生産量
	ha	kg	t	t
平. 21年産	32 000	456	145 900	30 300
20	32 500	488	158 500	32 300
前年産対比 (%)	98	93	92	94

## 【統計表】

### 一番茶の府県別摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

府 県	摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量 ( t )					
				計	おおい茶	普 通 せん茶	玉緑茶	番 茶	その他
	ha	kg	t						
主産県計	32 000	456	145 900	30 300	x	24 000	220	2 890	x
埼 玉	874	325	2 840	604	x	599	-	3	x
静 岡	18 100	414	75 000	16 000	235	15 500	136	159	25
三 重	2 970	496	14 700	2 880	1 510	1 190	-	182	-
京 都	1 380	526	7 260	1 490	719	454	-	314	-
奈 良	685	756	5 180	1 300	396	272	-	626	1
鹿児島	8 000	511	40 900	8 030	315	6 010	84	1 610	9

注：1 主産県とは、一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県及び畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式を採用している3府県を加えた6府県である。

2 統計表中の「x」は、個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表しないものである。

なお、前年値が「x」である場合、前年産対比も同様に「x」としている。

前 年 産 対 比 (%)									
摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 量 収 穫	荒 茶 生 産 量						
			計	おおい茶	普 通 せん茶	玉緑茶	番 茶	その他	
98	93	92	94	x	93	84	110	x	
92	96	88	86	x	86	-	150	x	
98	94	92	94	122	93	92	111	100	
99	84	83	83	x	81	-	153	-	
100	103	103	105	105	102	-	107	-	
98	105	103	109	91	89	-	142	20	
101	93	93	95	87	95	74	99	129	

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

茶生産量調査は、茶の生産に関する実態を明らかにすることにより、「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標の策定及び達成状況の確認のための資料とするとともに、茶に関する生産対策、需給対策等各種施策の企画立案の資料とすることを目的としている。

このうち一番茶については、農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営の資料とすることを目的に、一番茶調査として実施している。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

一番茶生葉収穫量の多い上位3県（静岡県、鹿児島県及び三重県）に畑作物共済事業（茶共済）を実施している府県のうち、半相殺方式<sup>注</sup>を採用している3府県（埼玉県、京都府及び奈良県）を加えた6府県を調査対象としている。

注：半相殺方式とは、被害耕地ごとの減収量（その耕地の基準収穫量から収穫量を差し引いた数量）の合計が、その組員等  
の基準収穫量（その組員等の耕地ごとの基準収穫量の合計）の100分の30を超えるときに共済金を支払う方式である。

#### (2) 調査対象

標本荒茶工場

#### (3) 調査対象数

	母集団荒 茶工場数	標本数	抽出率	回収数	回収率	集計対象数
	工場	工場	%	工場	%	工場
一番茶	4,452	587	13.2	514	87.6	511

### 3 調査事項

摘採面積、生葉収穫量、茶種別荒茶生産量

### 4 調査期日

一番茶調査は4月～6月に実施した。

### 5 調査方法

標本荒茶工場に対する往復郵送調査による。

### 6 集計方法

摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量について、階層別に推計を行い算出している。  
なお、主産県計については、主産県の結果を積み上げ集計している。

### 7 調査結果の精度（標準誤差率）

本調査における実績精度（標準誤差率）は、荒茶生産量を指標として1.33%である。

標準誤差率（%）＝標準誤差÷推定値×100

## 8 用語の解説

- (1) **おおい茶**とは、玉露、かぶせ茶及びてん茶の合計である。  
 なお、おおい茶については、近年増加している20日前後の直接被覆による栽培方法の扱いが明確化するまでの間、暫定的におおい茶として一括して表章することとした。
- (2) **普通せん茶**とは、各茶期に、自然光下で栽培した茶樹の新芽を摘採し、その生葉を蒸熱、揉み操作、乾燥して製造した荒茶をいう。
- (3) **玉緑茶**とは、自然光下で栽培した茶樹の新芽を摘採し、その生葉を蒸熱又は釜炒りし、強く揉まず、乾燥して製造した荒茶で、まが玉形やこれに準ずる形状をしたものをいう。
- (4) **番茶**とは、硬くなった新芽（葉）や冬茶期後に整枝の目的で刈り取った茶葉を原料に、蒸熱、揉み操作、乾燥させ製造した荒茶をいい、番茶を強火で焙じ、焦香をつけたほうじ茶を含む。
- (5) **その他**とは、食品加工用茶、紅茶等である。

## 9 茶期区分

全国的な標準茶期区分は、次のとおりである。

茶期名	区 分	茶期名	区 分
一番茶	3月10日 ～ 5月31日	冬春秋番茶	
二番茶	6月1日 ～ 7月31日	冬春番茶	1月1日 ～ 3月9日
三番茶	8月1日 ～ 9月10日	秋冬番茶	10月21日 ～ 12月31日
四番茶	9月11日 ～ 10月20日		

## 10 統計表の見方

- (1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数（下から）		2 けた		1 けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した後（統計数値）	123 500	12 300	1 230	123

- (2) 表中に用いた記号は以下のとおりである。

「－」： 事実のないもの

「x」： 個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表しないもの

## 11 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成22年10月刊行予定の『作物統計』に掲載する。  
また、二番茶以降を含めた年間の荒茶生産量（概数）等については、「平成21年産茶生産量」として平成22年2月中旬に公表予定である。

### 【ホームページ掲載案内】

- この統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報に掲載しています。  
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】  
分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「工芸農作物（さとうきび・茶）」に分類しています。
- この統計の累年データは、農林水産省ホームページ中の農林水産統計情報総合データベースに掲載しています。  
【 <http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei> 】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>基本政策 <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

### 問い合わせ先

#### ◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房 統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班 電話：03(3502)5687

#### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房 統計部

統計企画課 広報普及班 電話：03(6744)2037



平成22年2月1日現在で、2010年世界農林業センサスを実施します。

調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>

